



統合融資システムに注力

【327】

アイネットは、4月に創立50周年を迎えた独立系ITサービスを提供する東証一部上場企業。カードローン統合融資システムや原価計算システムなど実績ある製品を開発している。「常にお客様起点で考え、お客様に尽くす」をモットーに、金融機関への実績も豊富だ。代表取締役兼社長執行役員の坂井満氏(63)に事業戦略などを聞いた。



アイネット

代表取締役兼社長執行役員

坂井 満氏

——金融機関に向けたシステムは。

「二つのパッケージシステムがある。一つは消費者金融向けカードローン統合融資システム『LOAN RANGER(ローンレンジャー・LR)』だ。海外の金融機関5社を含めて15社の導入実績がある。もう一つは銀行向け活動基準原価計算システム『ABC Financial』だ。大手地方銀行トップ10行のうち7行を含めて22行が導入している」

——新サービスは。

「コロナ禍で求められている『非接触と非密集』をキーワードにした二酸化炭素(CO₂)

データ分析サービス「invisible CO₂」がある。CO₂と湿度を計測する小型IoTデバイスだ。室内CO₂濃度を常時モニタリングして、スマートフォンやパソコンで計測値を確認でき、アラートの通知や5分後の予測も可能だ」

——LRをリニューアルすると聞いたが。

「新しいサービスをお客様に提案できるように進めている。金融

機関以外の異業種でも活用できるようにする。専用のホームページを作り、問い合わせも増加している」

——金融機関に対する提言は。

「DX(デジタルトランスフォーメーション)の歩みが遅い。デジタル化、IT化は進んでいるが今までの延長線だ。ビジネスモデル自体を変えることが重要。また、地域金融機関は地域経済の核になっている。ハブとして地元企業との基盤になるように弊社はITを駆使して基盤を支えていく」

(聞き手＝安藤 克朗)

さかい・みつる 神奈川県出身、63歳。1980年上智大卒、富士通入社、2012年富士通マーケティング執行役員、15年アイネット入社。19年6月から現職。